



栗山中学校 (1年) 佐藤 小雪

私は「英語で会話を楽しむこと」を目標にしました。折り紙の折り方を伝えたいと思っていたので、日本の折り紙を持っていきました。折り方を英語で伝えることは難しかったけれど、鶴やカエルなどを作り、みんなで楽しむことができて良かったです。笑顔で積極的にチャレンジすることの大切さを学びました。



栗山中学校 (2年) 辻 萌花

私はこの少年ジェットでさまざまなことを学び、経験しました。最初は緊張していたホームステイもホストファミリーと日に日に仲良くなっていききましたが、英語を話したいと思っても、わからなくて悔しい思いもしました。うれしいことも悔しいことも経験でき、とても良い勉強になりました。



栗山中学校 (3年) 大野 美桜

私はこの研修で自分の目的にしていたことが達成できたと思います。アボリジニ文化をキングスパークで学び、環境や生活習慣はホームステイ先で学びました。最初は全然コミュニケーションが取れなかったのですが、だんだんとコミュニケーションをとることができました。この9日間はすごく楽しかったです。



岩見沢農業高校 (1年) 藤井 愛百合

少年ジェットに参加できたことで、たくさんのことを学ぶことができました。オーストラリアの人はフレンドリーで、ホストファミリーにも親切にしてもらいました。私が単語だけで伝える英語を目を見て理解しようとしてくれました。今回のことを将来に生かして、少年ジェットに関わる人に恩返しをしたいです。



岩見沢緑陵高校 (1年) 後藤 あみ

今回、ホームステイをして、ホストファミリーとたくさん話すことができました。ホストファミリーはとても優しい人たちで、英語が話せない私の伝えようとしていることを何度も理解しようとしてくれました。きちんと伝わったときはうれしかったです。英語を話せるようになりました。と思いました。



栗山高校 (2年) 山田 梓

私は少年ジェットで初めて外国に行き、ホームステイを体験しました。日本を離れるだけで不安で、ホームステイまでできるか心配でしたが、ホストファミリーの人たちはみんな優しく英語が話せなくても一生懸命聞いてくれました。とても楽しく充実し、たくさんのことを経験できた貴重な時間になりました。



岩見沢東高校 (2年) 藤澤 亮介

今回の研修で、私は貴重な経験をすることができました。言葉の通じない国でのコミュニケーションはやはり大変で、初日に買い物することに苦労していた自分が、最終日には現地の人に栗山町の説明ができていて、成長しているのを感じました。行く前と同様に、もっとうまく英語を話せるようにしたいです。



栗山高校 (3年) 丸山 知里

私が少年ジェットでさまざまなことを学びました。ホームステイができるか不安いっぱいでした。最初はステイ先での英語のスピードについていけませんでした。聞き取れるようになってからは、会話の中で文化の違いを学ぶことができました。これを機にまだまだ成長していきたいです。



岩見沢緑陵高校 (3年) 古田 凛花

少年ジェットに参加することができて本当に良かったです。一番不安で一番楽しみだったホームステイでは、英会話の楽しさや難しさ、自分の習慣や当たり前だと思っていたことをあらためて実感できて貴重な体験ができました。ホストファミリーには感謝しても足りないくらいです。



少年ジェット「希望の翼」



1月13日(金) 帰国・解散式



1月12日(木) パース市内研修



1月11日(水) シナジーパークでランチ



1月10日(火) シュノーケル体験



次代を担う中学生・高校生を海外に派遣し、豊かな感性や創造力豊かな青少年を育成する少年ジェット「希望の翼」。今年も1月5日から13日までの9日間、オーストラリアのパースで行われました。今回派遣されたのは、中学1年生から高校3年生の9人。昨年の11月から6回、事前研修を行い、英会話を中心に海外研修の準備をしてきました。現地では1人1世帯、4泊5日のホームステイを中心に、アボリジニ文化体験や班別行動などさまざまな体験を通して学習。日本との違いを肌で感じ、形の無いたくさんのお土産を手に入れて栗山に戻ってきました。



1月5日(木) 出発式



1月6日(金) パース着→市内観光



1月7日(土) 英会話学習で準備万端



1月9日(月) 現地の動物との触れ合い



1月8日(日) ホストファミリーと交流



栗山監督から激励 合格祈願祭

受験生の必勝を祈る「合格祈願祭」が元日、初詣客でにぎわう栗山天満宮で行われました。参加したのは受験を控える39人。参加者は神殿に玉串を捧げ、学問の神様といわれる菅原道真公ゆかりの「梅茶」で体を温めました。その後、栄養ドリンクやきびだんごなどが手渡され、用意された絵馬に志望校合格の決意などを書き込み、願いを込めて奉納。また、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督が「悔いの残らないように、自分の力を信じて頑張ってほしい」と受験生を激励しました。



新年とともに獅子が舞う 角田神社でかがり火舞



新年恒例の角田獅子舞保存会による「かがり火舞」が、元日の午前0時すぎに角田神社で行われました。角田獅子舞は、古くから伝わる「二人立ち獅子舞」が元となっており、平成20年に町の無形民俗文化財に指定されました。当日は、境内にかがり火が灯され、中国の諸葛孔明が猛獣を使う難敵を打ち破ったとされる戦いに由来するという口上の後、酒に酔いながら2頭の獅子と狸々が繰り広げるユーモアあふれる舞いが披露され、訪れた初詣客から大きな拍手が送られました。

農業の未来を語る ふれあいトーク

耳よりな話と楽しい語らいのゆえに「第79回ふれあいトーク」が1月9日、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで行われ、町内外から約60人が参加しました。この日は「農業とくらし・むらの未来」と題して、菅野牧園の菅野義樹さん（御園）ら3人が講演。新規就農者の菅野さんは「お世話になった皆さんのためにも必ず農家として自立し、栗山の農業に貢献したい」と力を込めました。



交通事故ゼロを願って 交通安全祈願式



平成29年の交通安全祈願式が1月12日、栗山天満宮で行われました。天満宮参道での交通安全指導員観閲式の後、拜殿内で関係者ら約40人が交通死亡事故のない1年に向けての誓いを新たにしました。祈願式では、椿原紀昭町長が「このまま痛ましい交通死亡事故が起きることのないように、先頭に立って交通安全施策を進めますので、ご協力をお願いします」とあいさつ。終了後には、市街地交差点など8カ所で交通安全指導員による年初めの街頭指導が行われました。

栗山監督が読み聞かせ 町内の保育園を訪問



北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督が1月7日、栗山いちい保育園と継立まづ保育園で絵本の読み聞かせを行いました。使われた絵本は、選手会を中心に作られたオリジナル絵本。集まった園児は絵本の世界に引き込まれていました。その後、栗山監督から園児たちに絵本や色紙などが渡され、記念写真の撮影も行われました。栗山監督は「良く寝て食べて運動することが大切」と呼びかけ、栗山いちい保育園の中井穂乃花ちゃんは「監督の読み聞かせは楽しかった」と話していました。

栗小グラウンドに雪山を 学校奉仕活動

株式会社横山工業が奉仕活動の一環として1月14日、栗山小学校で雪山づくりのボランティア作業を行いました。大型の重機を使用し、およそ2時間でグラウンドに高さ3メートルほどの雪山を作りあげました。横山社長は「子どもたちにスキー授業や雪山遊びに使ってもらいたいです。お世話になった町への恩返しとして、できる限り続けていきます」と笑顔で話していました。



安全な暮らしに向けて セブン・イレブンと協定締結



栗山町と株式会社セブン・イレブン・ジャパンが1月20日、「栗山町地域見守り活動に関する協定」と「災害時の物資供給及び店舗営業の継続又は早期再開に関する協定」を締結しました。これらの協定には、町民が安心して暮らせる見守り活動を行うことや、大規模災害時に、食料・物資の提供と店舗の早期再開を行うことなどが盛り込まれています。役場会議室で行われた締結式で、セブン・イレブン・ジャパンの内竹善哉さんは「微力ながらお手伝いをしていきます」と決意を語りました。

高校生がボランティアを体験 ボトルキャップなどを選別

栗山高校の生徒17人が1月21日、総合福祉センター「しやるる」で、ペットボトルキャップとリングブルの選別ボランティアを行いました。町老人クラブ連合会が主催。ペットボトルキャップは障がい者自立作業所へ届けられ、リングブルは車いすに交換されます。この日は、町内で集められたペットボトルキャップ約400kgとリングブル約200kgの選別を約3時間行いました。栗山高校2年の河端拓斗さんは「地域の人と交流しながらできるので、楽しかったです」と話していました。

